


国家の象徴

マウン・デイ

人は毎日のように、暴力的な過去を内包し、国家主義者の政治的物語を背負った彫刻や記念碑のすぐそばを歩いている。これらの物語は人々の心のなかに忍び込み、日常生活における考え方や振る舞いに影響を及ぼす。しかしながら、こうした政治的物語を具現化した像は、時代の流れと共に常に変化する地域の現実を反映してはいない。このプロパガンダが、長い時間続けられることによって、人々には、過去の政情に対して受け身な考えが植え付けられていく。マウン・デイの映像作品《Monument of Doubt》は、作家が滞在制作プログラムに参加してベトナムに滞在中、ホーチミン市で撮影された。同作は、政治的象徴性や、受動性と社会での閉鎖性を助長する国家主義への復古趣味に問いを投げかけている。

 Monument of Doubt - a Short Film (dir. Maung Day) 2018



